

強度行動障害者支援者養成研修 【実践研修】

伝達研修（その1）

放課後等デイサービスわくわくクラブ

強度行動障害とは

自傷、他傷、物壊し
多動、こだわり等
本人や周囲の人の
暮らしに影響を及ぼす行動

- ・著しく高い頻度で起こる
- ・特別に配慮された支援が必要になっている状態

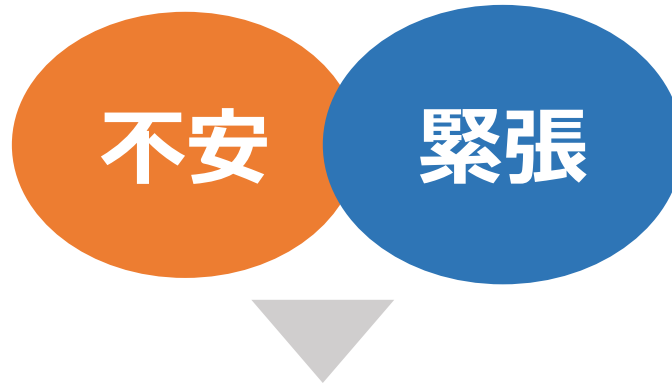
×もともとの障害

○その人の状態

なぜ、強度行動障害になるのか

障害からくる苦手さにより、

- ・先の予測をすることが難しい
- ・見えないものの理解が難しい
- ・抽象的であいまいな表現の理解が難しい…



周りに迷惑をかける激しい**行動**などで気持ちを表す

強度行動障害が定着するしくみ

適切な行動を教えられていない

障害からくる苦手さが
解消されない

気持ちを伝えるために

激しい行動をとる

周囲が誤った対応を繰り返す

自分の気持ちが伝わると
理解する

▶ 激しい状態が定着する

では、どのようにしたらいいのか？

予防



軽減



社会参加

支援の現場では

支援手順書に沿って支援することが大切

本人の特性に合わせた**統一した支援**

支援手順書←今日は扱いません

個別支援計画の内容から

- 1) 具体的な活動
- 2) 活動のスケジュール
- 3) 必要な配慮 などを詳細に記入したもの

作成のためには**アセスメント**が必要

アセスメント（評価・実態把握）とは

基本的情報

医学的な診断、障害支援区分、療育手帳の有無

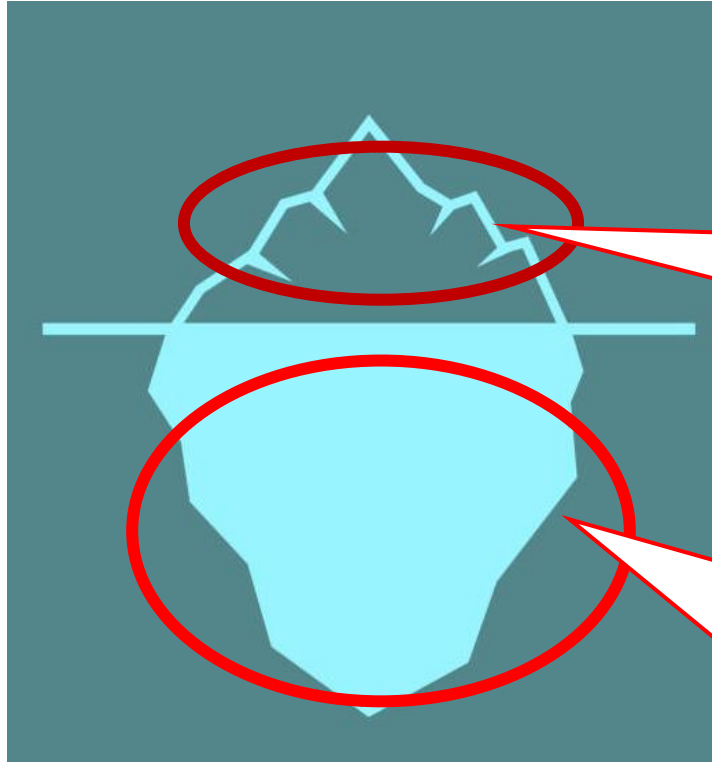
フォーマルな
アセスメント

知能検査、発達検査など標準化された検査

インフォーマルな
アセスメント

日常の観察やインタビューによって得られる情報

当事者目線で問題をとらえるための「冰山モデル」

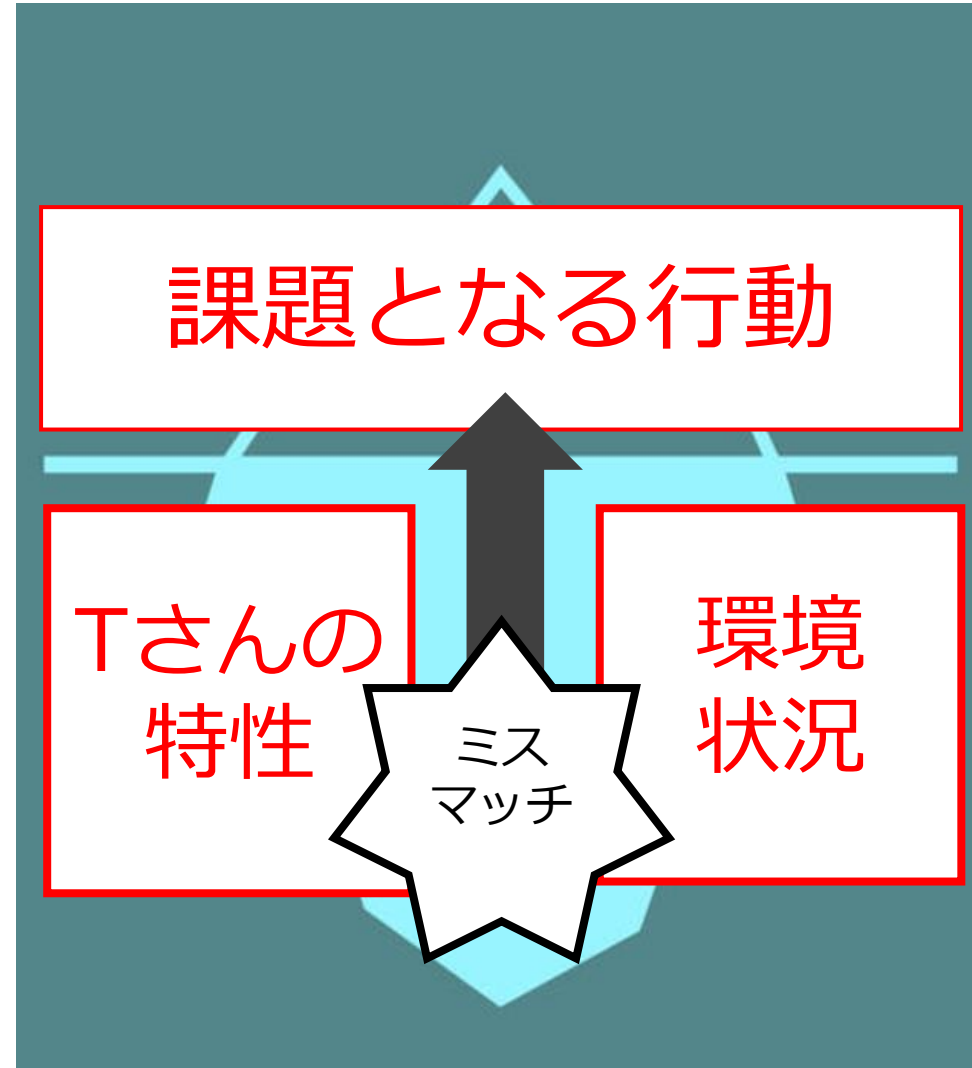


目に見える部分が氷山の一角
=Tさんの課題となる行動

水面下に**目に見えない部分**がある
=Tさんの「特性」など

目に見えない部分を理解してアプローチする
⇒表面に出ている問題が小さくなる

氷山モデルの仕組み



事例を通してアセスメントを考える

名 前：Tさん

年 齢：32歳 性 別：男性

診断名：自閉スペクトラム症 重度知的障害（IQ30）

利用サービス：共同生活援助（グループホーム）
生活介護・行動援護

Tさんの「課題となる行動」

Tさんはお出かけが気になって、なかなか作業ができない



Tさんに作業をしてもらうために、職員も懸命に働きかける



お出かけが気になり出て行こうするTさんを、職員が制止する



大きな声を上げて飛び跳ねながら、Tさんが自分の顔を叩いた



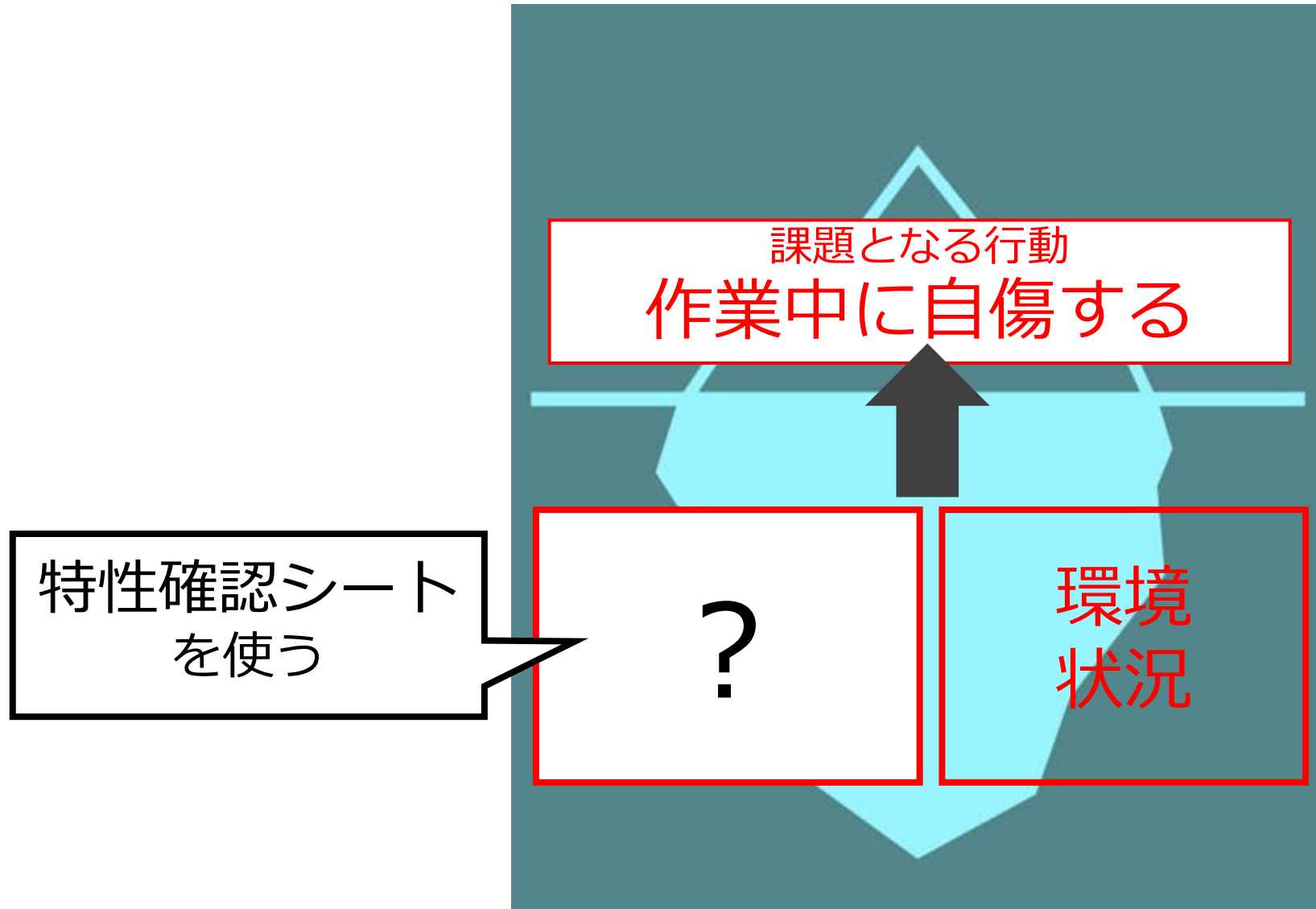
「自傷」という激しい行動ばかりに注目せず、
冷静に行動を観察するために**行動チェックシート**を使う

行動チェックシートとは

- * 客観的な観察＝アセスメントのための道具
- * シートを使い「課題となる行動」に関する事実を把握
- * 使い方
 - ①項目にチェックを入れる
 - ②チェックを入れた箇所に、具体的な行動を記す

行動チェックシート実践

「特性確認シート」を使い Tさんの特性を把握



特性確認シートとは

- * 行動の背景となる「特性」を確認するための道具

- * シートを使い、隠れている「特性」を把握
⇒支援のアイデアを考案

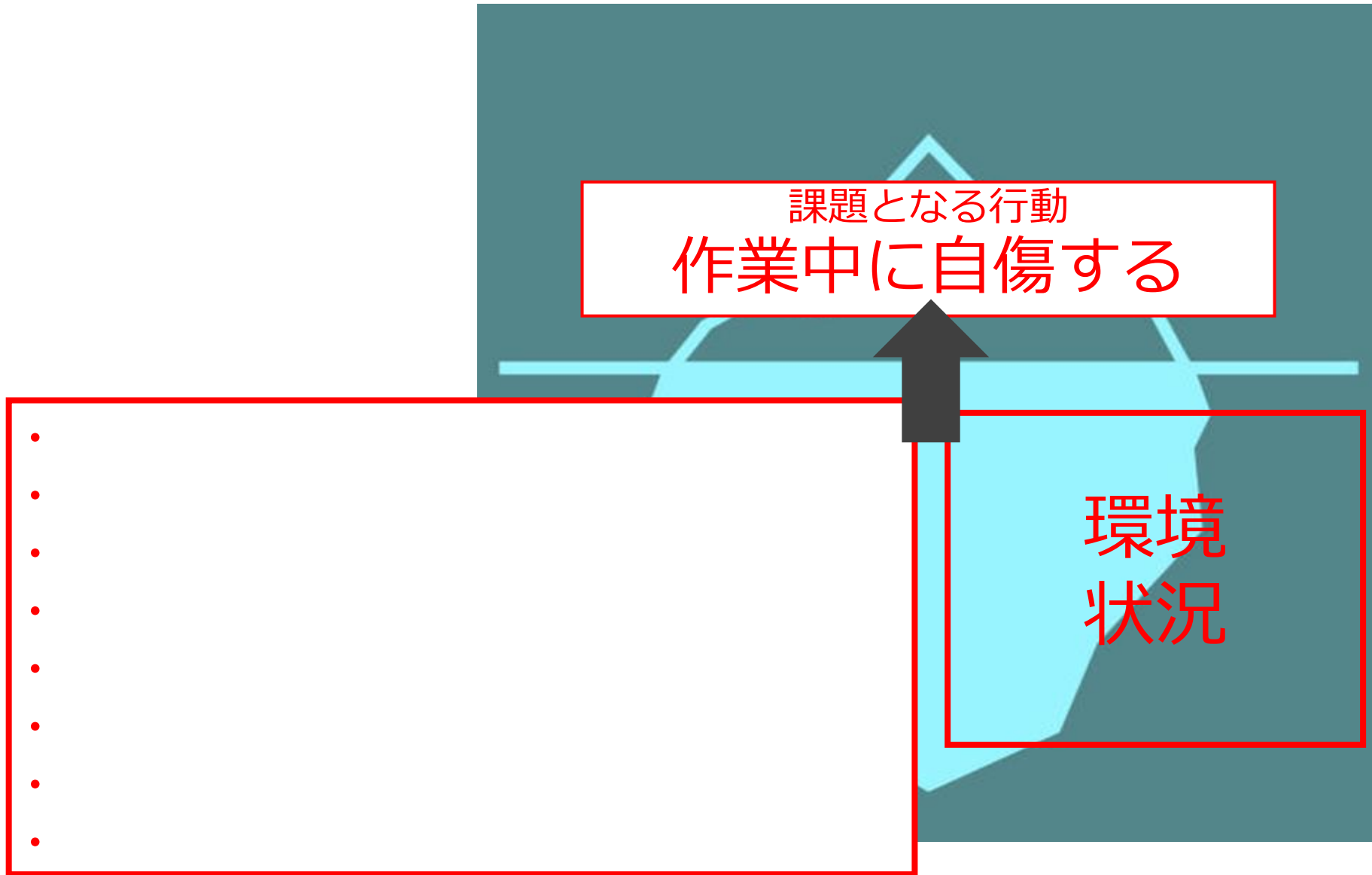
- * 使い方

- ①項目にチェックを入れる

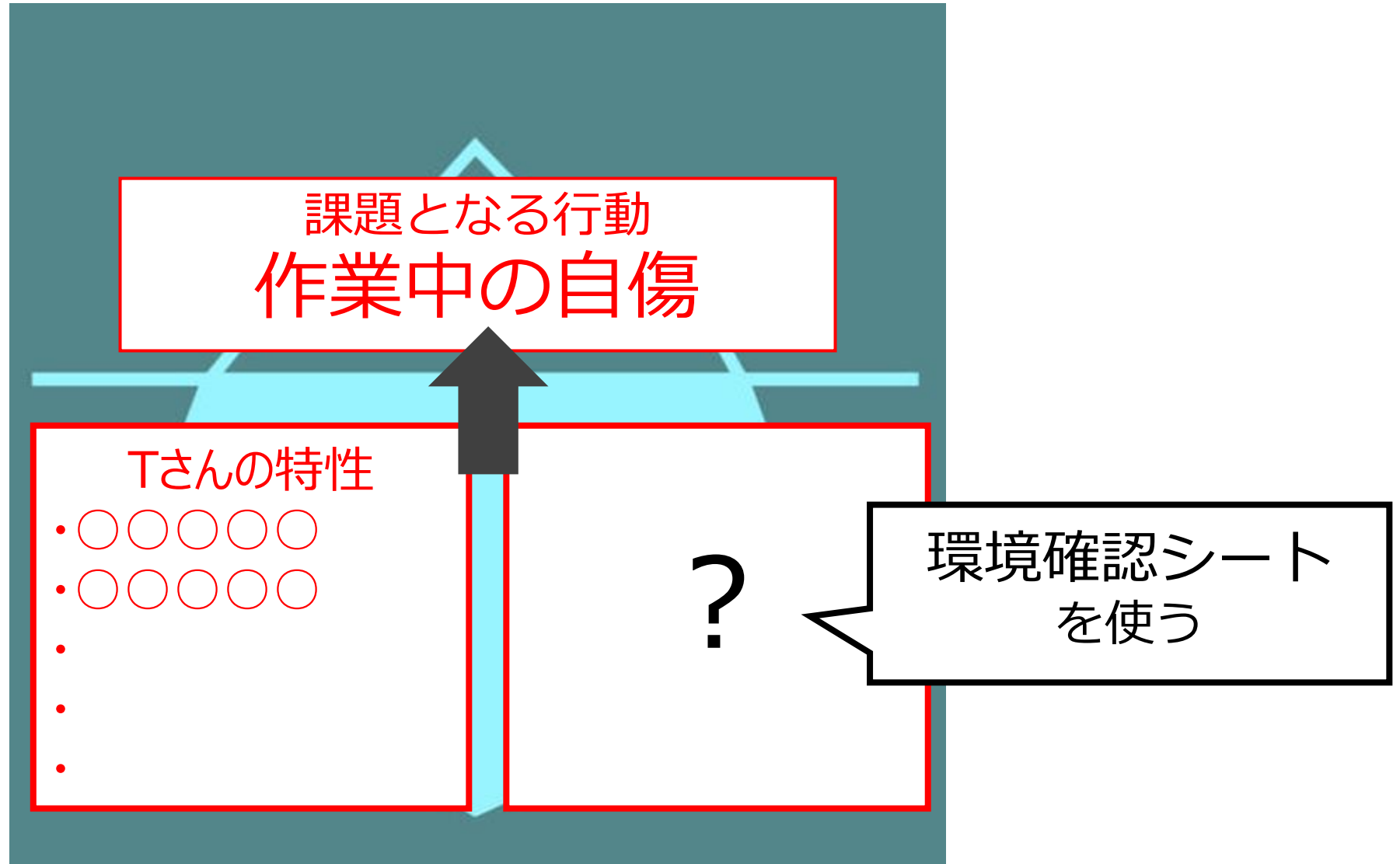
- ②チェックを入れた箇所に対する支援のアイデアを記入

特性確認シート実践

「特性確認シート」を使った結果



「環境確認シート」を使い、
課題となる行動が表れている環境・状況を整理する



環境確認シートとは

人 : 支援者からの指示は何で出していたか

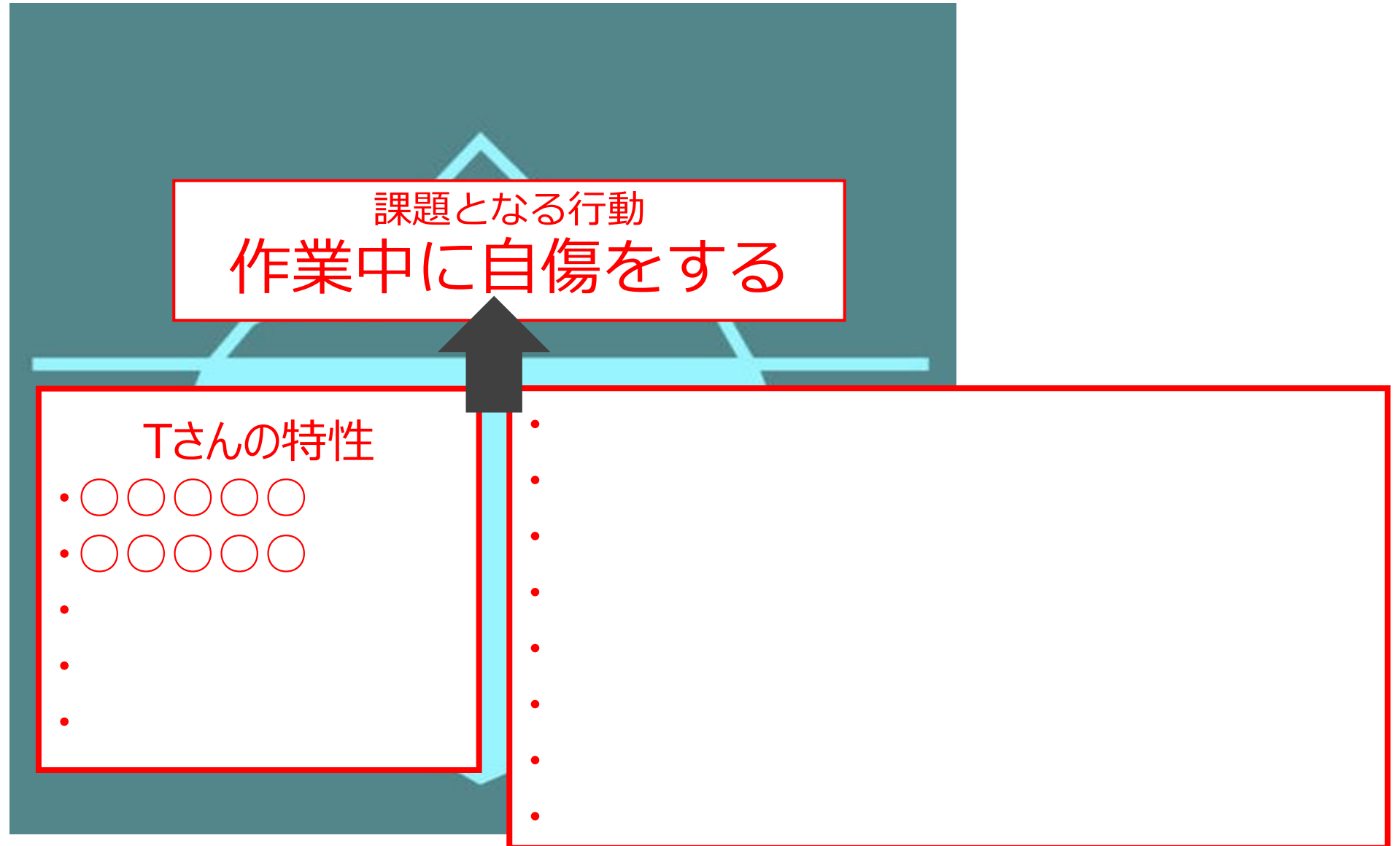
物 : 見えると気になるような物が置いてあるか

場所 : 何をする場所なのか、見ればわかるようになっているか

状況 : その活動の前に気になることはなかったか など

Tさんの行動に関連しそうな具体的な環境を記入する

「環境確認シート」を使った結果



環境確認シート実践